

Asia Food

「食」業界のアジアへの事業展開を支援する
唯一のネットワーク。

AFBA Monthly

VOL.67

2019.02.18

発行人：田中 秋人
編集長：橘川 昭文
編集：会員サービス向上委員会
一般財団法人アジアフードビジネス協会事務局
〒104-0045東京都中央区築地1-9-5 一丸ビル5階(株)アジア戦略本部内

TEL: 03-3524-8080 FAX: 03-3524-8125
E-Mail info@asiafood.jp Web Site <http://asiafood.jp>
Facebook <https://ja-jp.facebook.com/asiafoodbiz>



目次

- P.1 <協会活動>
Bangladesh Visit 視察ツアーの概要報告
- P.2 <協会活動>
Bangladesh Visit 視察ツアー報告
- P.3 <協会活動>
Bangladesh Visit におけるスイーツ事情
- P.4 <協会活動>
Bangladesh Visit 進出の可能性と課題
<会員企業活動>
千房ハラル対応店舗オープン
- P.5 <会員企業連携活動>
農水省補助事業経過報告：
アメリカ市場視察 (NY編)
編集後記
- P.6 <協会活動案内>
アジア新市場研究会の台湾セミナー
- P.7 <協会連携活動案内>
JETROのサービス産業海外展開プラットフォームセミナー

◆協会活動

◆ バングラデシュ視察ツアーの報告 (1回目)

昨年10月に当協会が立ち上げました「アジア各国の新市場研究会」に関して、第1ヶ国目の対象国としてバングラデシュ人民共和国をピックアップし、進出に向けての調査や研究を10月～11月にかけて集中的に行いました。

それまでの3回の研究会の集大成として、会員企業様と協会メンバー総勢14名でバングラデシュ視察ツアー(本年1月21日～26日)に行ってきました。このページでは、この視察ツアーの「目的と成果」に関してご報告し、次のページでは参加企業様から寄せられた感想や学ばれた点をまとめさせて頂き、ご報告致します。



ナラヤンガンジ市役所訪問と、サラナ市長との和やかな面談

この視察ツアーの「目的」:①これまで研究してきたバングラデシュに関して、統計データでは、知り得ない肌感覚の調査や現場での生情報の収集 ②現地滞在中に開催されている「ダッカ・インターナショナルトレード・フェア」での和食の可能性を探るテストマーケティングの実施。③今後のバングラデシュでのビジネス構築の為に現地ネットワーク作り。以上の目的を達成すべく、首都ダッカの交通渋滞と、世界一の人口密度に驚きながら、精力的に視察して回りました。外務省からのバングラデシュへの渡航は、「レベル2で、不要不急の渡航は控えるように」との事でしたが、約2年前に起こったダッカテロ事件以降、国をあげてセキュリティ対策に力を入れており、それ以降テロが起こっていないのと、私たちも危険を感じる事はありませんでした。短いダッカ滞在期間ではありましたが、当初考えていた以上の「成果」を、あげることができました。

政府・自治体・公的機関情報

第四回「サービス産業海外展開プラットフォーム」セミナー・交流会

- ◇日程 :2019年3月7日(木)
(セミナー)16:00～18:15
(交流会)18:15～19:15
《受付》 15:00～16:00
- ◇会場 :JETRO本部(東京)5階展示場
- ◇アクセス :
<https://www.jetro.go.jp/jetro/profile/map.html>
- ◇講師
(1)株式会社松井オフィス 代表取締役社長 松井忠三 様(株)良品計画前会長)
(2)ホテル三日月グループ 代表取締役社長 小高芳宗 様
(3)海外進出のポイント、JETRO事業・サービスの案内(仮)
- ◇参加費 :
<セミナー> 無料<交流会> 会費制: 3,000円/人
◇定員 :120名 ◇申込方法 :以下のURLよりお申込み下さい。
<https://www.jetro.go.jp/customer/act?actId=B0053331R>
- ◇締切 :2019年2月25日(月)

日本貿易振興機構(JETRO)サービス産業部 サービス産業課ハンズオン支援班
担当:山田、山崎、桑原
TEL:03-3582-5238



富山ラーメンを作られる 栗原会長ご夫妻



今回の視察ツアーの「成果」:①バングラデシュ実態経済や市場規模、経済の優位性を、現場にて肌感覚で理解できた事。

- ・統計データ以上に、GDPの69%を占める民間消費のボリュームが大きい事を街中で実感。「急速に進むモータリゼーション(中間層や富裕層は、高級車所有)を、目の当たりにしました。
- ・海外出稼ぎ労働者の送金額1.3兆円が、外貨準備高の1/3を占め、民間消費を潤している事実。・経済成長と共に都市への人口移動が顕著で、ダッカでは1人当GDPが3,000米ドルを超える

②バングラデシュの食文化や食材に関する現地情報を収集できた事と、政府の「食政策」を伺う機会と意見交換する事ができた。

- ・バングラデシュ人しか行かない店でのベンガル料理のランチ試食の実施と、店でのハラル対応の実情を実体験。
- ・一般市民の買物行動の実体験として、ダッカ市内のウエットマーケットやバザールを視察し、品質と鮮度チェック。
- ・地元の食品スーパーでの視察を通じ、品揃え、鮮度や価格の確認と、売場運営や客層の分析。
- ・政府の「食政策」は、糖尿病を減らし、食の安心安全、品質の向上にあり、行政指導も実施しているとの事。

③和食の良さと美味しさを紹介する「バングラデシュ・日本間の食文化親善夕食会」を開催できた事。

・バングラデシュ側からは、政府関係者や実業家、マスコミ関係等20名強の方々にご参加頂き、日本側からは、日本大使館の参事官にもご参加頂き、視察ツアーメンバーとの和やかな交流が持てた事。・アブドゥル文化省次官補からの歓迎と食文化についてのスピーチに続き、田中理事長からは、今回の視察ツアーの目的と、両国の更なる発展の為に日本側の協力について話された。

・ツアー参加者から、企業紹介を和食の良さを具体的に説明すると共に、和食やお菓子の試食を実施でき、富山ラーメンは会場で作れ、できたてをバングラデシュの参加者に食べて頂きました。初めて食べるラーメンの味に、バングラデシュの参加者から笑顔がこぼれ、美味しい、美味しいとの称赞の声と共に、是非ダッカでも食べられるようにして欲しいとの声も聞かれました。このようなバングラデシュと日本が、食を通じて交流した親善夕食会の模様は、翌日の地元新聞社や放送局で報道され、和食の良さを知って頂く、絶好の機会となった事もご報告致します。バングラデシュ滞在は、実質3日間半と短期間でしたが、実り多い視察ツアーとなりました。

文責:(財)アジアフードビジネス協会 理事 渡辺幹夫